

■原子力発電所の事象の国際評価尺度 INES (The International Nuclear Event Scale)

	レベル	基準			参考事例 (INESの公式評価でないものも含まれている)
		基準1:人と環境	基準2:施設における放射線バリアと管理	基準3:深層防護	
事故	7 (深刻な事故)	●広範囲の健康および環境への影響を伴う放射性物質の大規模な放出			●旧ソ連チェルノブイリ発電所事故 (1986年) 暫定評価 ●東北地方太平洋沖地震による福島第一原子力発電所事故 (2011年)
	6 (大事故)	●放射性物質の相当量の放出			
	5 (広範囲な影響を伴う事故)	●放射性物質の限定的な放出 ●放射線による数名の死亡	●炉心の重大な損傷 ●公衆が著しい被ばくを受ける可能性の高い施設内の放射性物質の大量放出		●アメリカスリーマイルアイランド発電所事故 (1979年)
	4 (局所的な影響を伴う事故)	●軽微な放射性物質の放出 ●放射線による少なくとも1名の死亡	●炉心の全放射エネルギーの0.1%を超える放出につながる燃料の溶融または燃料の損傷 ●公衆が著しい大規模被ばくを受ける可能性の高い相当量の放射性物質の放出		●ジェー・シー・オー臨界事故 (1999年)
異常な事象	3 (重大な異常事象)	●法令による年間限度の10倍を超える作業員の被ばく ●放射線による非致命的な確定的健康影響	●運転区域内での1Sv [*] (シーベルト)/時を超える被ばく線量率 ●公衆が著しい被ばくを受ける可能性は低い設計で予想していない区域での重大な汚染	●安全設備が残されていない原子力発電所における事故寸前の状態 ●高放射能密封線源の紛失または盗難	
	2 (異常事象)	●10mSv(ミリシーベルト)を超える公衆の被ばく ●法令による年間限度を超える作業員の被ばく	●50mSv(ミリシーベルト)/時を超える運転区域での放射線レベル ●設計で予想していない施設内の区域での相当量の汚染	●実際の影響を伴わない安全設備の重大な欠陥	●美浜発電所2号機 蒸気発生器伝熱管損傷事故 (1991年) ●大洗研究開発センター燃料研究棟作業員被ばく事故 (2017年)
	1 (逸脱)			●法令による限度を超えた公衆の過大被ばく ●低放射能の線源の紛失または盗難	●「もんじゅ」ナトリウム漏えい事故 (1995年) ●敦賀発電所2号機1次冷却材漏れ (1999年) ●浜岡原子力発電所1号機余熱除去系配管破断事故 (2001年) ●美浜発電所3号機二次系配管破断事故 (2004年)
尺度未満	0 (尺度未満)	安全上重要ではない事象			
	評価対象外	安全に関係しない事象			